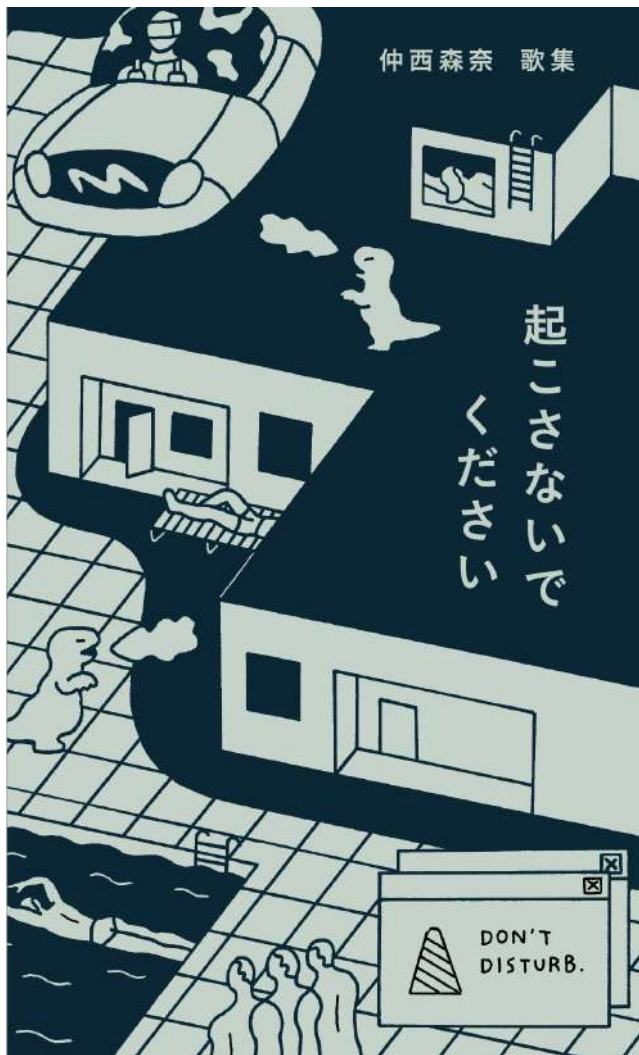


出版社さりげなくのご紹介資料

さりげなくの書籍について、出版社・メンバーについて、資料をまとめました。
雑誌への掲載や取材などにぜひお使いいただきたく、送付させていただきます。
ご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

お問い合わせ等に関しては、sarigenaku.staff@gmail.com（担当：熊谷）
までお願いいたします。



仲西森奈『起こさないでください』

作家・仲西森奈、初の短歌集。さりげなく初の本。

誰もが身に覚えのある愛。どこに向けるわけにもいかない苛立ち。万事どうにもならぬ、ましてや言葉にできそうにもない、あらゆる事柄を短歌にしたための。短歌以外にも、短篇小说やエッセイが挟まれている。

単語の索引が付いていたり、寝落ちしてもパタンと開いたままになるコデックス装、短歌に馴染みのない方もたのしめる魅力の詰まった一冊。

本体価格：1,800円＋税
サイズ：B6変形 (W110*H182mm)
ページ数：252頁

著者：仲西森奈 編集：稲垣佳乃子
装丁：古本実加 装画：朝野ペコ
印刷：有限会社 修美社
2019.11.18 初版発行



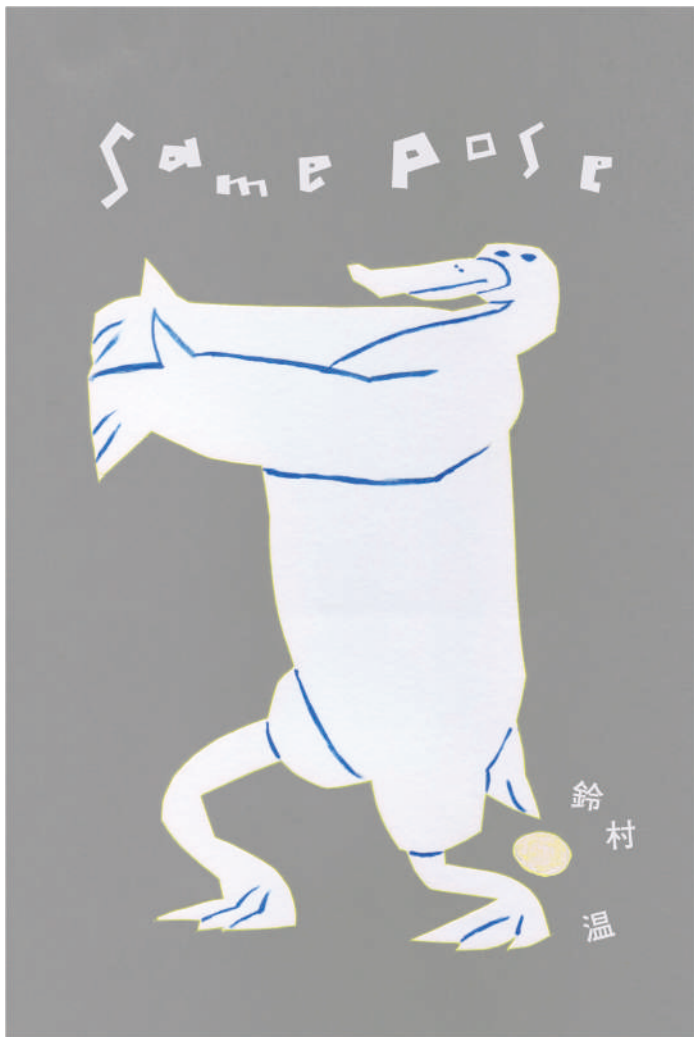
岩谷香穂『渡り鳥』

閏年にしか本屋に並ばない本。名前の由来は、渡り鳥のように、定期的にしか姿を見せないようすから。見えないものと見えるものをテーマに書かれた随筆が8ページ、その他の358ページは白紙になっている。布貼りの上製本、表紙には空押しの箔を施し小さいながらも存在感ある一冊。

ドイツの詩人・ノヴァーリスの詩「すべてのみえるものは、みえないものにさわっている。」から文章は始まる。

本体価格：2,500円+税
サイズ：文庫サイズ
ページ数：366頁

文・絵：岩谷香穂
編集：稲垣佳乃子
装丁：古本実加
印刷：有限会社 修美社
2020.4.7 初版発行



鈴村温 『Same Pose』

116匹の動物たちが、いろんなポーズしているプレイブック。彼らのポーズをまねて遊ぶのが、この本の楽しみどころ。右利きも左利きも本を持ってポーズがとれるよう両方から開ける本になっている。著者が太極拳教室に通っていることから、ポーズは太極拳からインスピレーションを受けている。

コンセプトは「イメージすると、うまくいく。いろんなものに、なりきってみる。春がきたら、丘の上で。」

作家のこの言葉を、編集・稲垣が偶然見た瞬間にこの本が生まれた。

本体価格：1,500円＋税
サイズ：B6（両面開き）
ページ数：256頁

作者：鈴村温（すずむら・のどか）
編集：稲垣佳乃子
装丁：古本実加
2020.9.9 初版発行



植田楽『うちの動物たち』

京都・恵文社一乗寺店にて行われた、作家・植田楽さんの展示「うちの動物たち」に合わせて刊行された展示図録。作家の手から離れた作品が、誰かのおうちで生活するようすを覗き見する一冊。サイズの違う本2冊を紙とセロハンテープで製本している。

植田楽氏は、紙とセロハンテープで生き物をつくる作家。物語を描く作家ではないが、どこか本のような、深みのある、味わい深い作品をつくることから、さりげなくがプロデュースを担い、HP作成や企画展などを企画。

本体価格：1,800円＋税
サイズ：B6変形
作家：植田楽 写真：徳永陽介
編集：稲垣佳乃子 装丁：古本実加

▼植田楽氏ホームページ
<https://ueda-hiraku.com>
制作：さりげなく



宮崎玲奈『つかの間の道』

青年団所属の劇作家・演出家で、演劇カンパニームニ主宰の宮崎玲奈さんからの依頼で生まれた戯曲集。もともとは劇場でのみ販売予定だったものだが、物語の力に感銘を受け、さりげなくでも出版することに。

もう居ないはずの誰かに目の前にいる誰かが重なり、今いる場所にかつていた場所が重なっていく、都市生活者冒険譚。戯曲はすべて日常の言葉から作られる。会話を繰り返すすすむ日常には始まりも終わりもない。そんな戯曲を、どの場面からも切り取ることができるペリペリと剥がれやすい製本で仕立てる。

本体価格：2,000円＋税
サイズ：A6（文庫サイズ）
ページ数：137ページ

作者：宮崎玲奈
装丁：古本実加
編集：稲垣佳乃子、熊谷麻那
印刷・製本：藤原印刷
2021.3.1初版発行



雑誌「思考記 2020-2021」

思いついたことを、考えつづけ、記す雑誌、思考記。

さりげなく初の雑誌。テーマを設け考えつづけ、その過程を明確な答えを提示するのではなく、エッセイ、漫画、対談など、様々な表現で思考を可視化する。

創刊号は「見えないものと見えなくなるもの」「低気圧と高気圧」「父性と母性」「お金」の4テーマを思考。

装画・挿絵には、イラストレーター・小島武のイラストを使用。テーマ数に合わせた4つのスピンの、白の空いたノンブルを設け、思考の余白を感じさせる装丁となっている。

本体価格：1,500円＋税
サイズ：B6サイズ
ページ数：240ページ

思いつき：KUUMA、さりげなく
編集：稲垣佳乃子、濱部玲美、熊谷麻那
装丁：古本実加 装画・扉絵：小島武
印刷：藤原印刷 製本：加藤製本
2021.1.31初版発行



雑誌「納豆マガジン」

なんとなくダサさのある納豆を、あらゆる角度からポップカルチャーとして紹介していく納豆マガジン創刊号。はじまりに相応しい粘っこい企画をなんどもなんども混ぜて詰め込む。納豆部・村上を編集長に据え、生まれた雑誌。

納豆小説に納豆画廊、納豆グラビアに納豆ごはんベスト10まで。クセは強いかもしれませんが、匂いや粘りはございませんので、ご安心ください。

本体価格：1,500円＋税
サイズ：B6サイズ
ページ数：240ページ

編集長：村上竜一
編集：稲垣佳乃子
デザイン：古本実加、梅本華乃
2021.2.2 初版発酵

出版社さりげなくのこと

さりげ
なく

出版社さりげなく

AでもBでもなく、

じつはそのふたつの間に豊かなものがある。

AかBを見つけるのではなく、

その間にある無数のいろいろに気づくということ。

ふたつの間にある、無数のいろいろのために、

さりげなく。

さりげなくのこと

さりげなく

京都・松ヶ崎に事務所をかまえる出版社。20代を中心とした6人のメンバーで構成され、「わかりにくい本をつくる」を心がけた本づくりをしている。

「さりげなくラジオ」や「定期便」など、本をつくり届けるのみならず、さりげなくらしい企画を次々に打ち出していることも特徴。取引は全て直取引。本屋さんとの丁寧な関係づくりを通して、確かに本を届けることを大切にしている。

また、出版事業のみならず、企業の広報媒体等の編集・デザインなども手がけ、物語を感じられるものことの編集・デザインを得意とする。

設立

2019年創業。翌年、株式会社へ組織変更。

所在地

〒606-0844 京都府左京区下鴨北茶ノ木町25-3 花辺内
花辺：<https://www.hanabekyoto.com>

さりげなくが大事にしていること

さりげなく

- ① 流行りに消費されない本、わかりにくい本をつくる
- ② 直取引をすること（思考の多様化を書店ともに生み出す）
- ③ 作家の土台となること
- ④ どこか誰かの本棚に100年以上あることの覚悟をもつこと。
上記をきちんと真摯に続け、300年は続く出版社に。

さりげなくが大事にしていること

さりげなく

① 流行りに消費されない本、わかりにくい本をつくる

今だから売れる、わかりやすい本は作りません。ハウツー本やビジネス書は作りません。今すぐにはわからないけれど、大切にしたい本をつくりたい。それが、何年も形が残り続ける「本」という媒体を、選ぶ理由でもあります。読むたびに、景色が変わったり、気づきが変わるものをつくる。時代が変わっても、古くならない本、何年経ってもそばにおいておきたい本を、編集と装丁の2つの観点からつくっていきます。

さりげなくが大事にしていること

さりげなく

② 直取引をすること（思考の多様化を書店ともに生み出す）

出版社と本屋とのやりとりには、「直取引」と「取次」の大きく2つがあり、私たちは「直取引」のみでやりとりをしています。すべての本屋さんと直接やりとりをするので、それはそれは労力がかかります。しかし、いい本は、届けてくださる本屋さんがあるこそ。本をつくる上での思いや背景をきちんと本屋さんに伝えてゆき、その上で選んでいただきたく、そのようなやり方を選んでいきます。

さりげなくが大事にしていること

さりげなく

③ 作家の土台となること

さりげなくは、他メディアには乗らないような、流れに埋もれてしまうような、思いや考え方を掬い上げ、その問いやユーモアを、本という形にして、読者に投げかけ、長い時間をかけて、文化を作っていく出版社でありたいと思っています。

フォロワー数の多い人たちを作家として取り上げるのではなく、時代の流れには乗らず、声も大きくはないが、力のある作家が、声をあげる場所を作り、力をつけていく場所として、出版社はあるべきではないかと考えています。

さりげなくが大事にしていること

さりげなく

④ どこか誰かの本棚に100年以上あることの覚悟をもつこと。

以上のことをきちんと真摯に続け、300年は続く出版社にしたいと思っています。本を手にとってくださった人たちと、100年の人生を共にする本を、つくり続ける。本棚の持ち主が変わり、世代を超えても誰かの心の片隅にある。そんな本をつくり続ける出版社でありたいと思っています。

さりげなくのメンバー

代表・編集部

稲垣 佳乃子

kanoko inagaki

1993年、神戸市生まれ。さりげなく代表、企画・編集。25歳でさりげなくを立ち上げ、全ての本の企画・編集に携わる。作家の思いを見出し、何を伝えるべきかを考え、本だから表現できることを常に模索しつづける。また、学びと食の企画制作会社『KUUMA inc.』と、企業ブランド開発や情報の発信戦略などあらゆるコピーライティングを手がける『LANCH inc.』でも働く。

ソトコト取材記事：<https://sotokoto-online.jp/3627>

稲垣が執筆する英語教室日記：

http://eigokyoshitsu.info/bells_and_whistles/

装丁部

古本 実加

mika furumoto

1993年、香川県生まれ。装丁家、グラフィックデザイナー。京都工芸繊維大学を卒業後、デザイン会社勤務を経て独立。2019年より平野甲賀に師事。出版社さりげなくのブックデザインを全て担当している。現在は紙ものだけではなく、空間、描き文字など、活動の幅を広げている。

Instagram：

<https://www.instagram.com/furumotomika/>

Twitter：<https://twitter.com/furumotomika>

納豆部

村上 竜一

ryuichi murakami

1993年、広島県生まれ。ライター・編集者。さりげなく納豆部。関西誌「カジカジ」にて編集者として活動後、フリーライターに転身。在籍中に納豆の沼にどっぷりとはまり納豆レビューをはじめ。その後、2021年3月に出版社「さりげなく」より「納豆マガジン」を発酵。納豆にタレはつけない派。

納豆マガジンの情報発信：

<https://linktr.ee/nattomagazine>

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

資料を読んでくださった皆様とのご縁が、これからも続くことを祈って。

さりげなくメンバー一同